

2025 年 8 月 24 日（聖霊降臨後第 11 主日・特定 16、C 年）

メッセージ

「先行する神の恵み」

（ルカによる福音書13:10-17）

執事 パウロ 福永 澄

本日の福音書には、十八年間腰が曲がってまっすぐになれなかった女性が登場します。彼女は、身体的な苦しみだけでなく、心と魂にも深い束縛を受けていました。前を向くことも、人と目を合わせることもできず、うつむいたまま過ごした年月は、孤独と痛みに満ちたものでした。

しかし安息日、会堂で教えておられたイエスが、群衆の中から彼女を見つけます。彼女が自ら声を上げたものではありません。

イエスの方から先に目を留め、呼び寄せ、「あなたは病気から解放された」と宣言されたのです。手を置かれると、彼女はすぐにまっすぐになり、神を賛美しました。

ここに、神の恵みの本質があります。神は私たちが完全に整ってからではなく、弱さのただ中にあるままで近づき、先に恵みを与えてくださいます。恵みは、私たちが求める前から注がれているのです。

ところが、この出来事を見た会堂長は喜びませんでした。安息日に癒すことは律法に反すると思ったからです。彼にとっては、人が十八年間の束縛から解放された事実よりも、規則を守ることの方が重要でした。

私たちも同じように、誰かが恵みを受けたときに「まだ早いのでは」「資格がないのでは」と条件をつけたり、自分に対しても恵みを拒んだりすることがあります。

しかしイエスは、「この人はアブラハムの娘です。十八年間もサタンに縛られていたのを、安息日に解いてやってはいけないのですか」と語り、今ここで恵みが与えられるべきことを明らかにされました。

癒された女性はまっすぐ立ち、神を賛美しました。恵みを受けるとは、まず感謝をもって受け取ること、そしてそこから新しい歩みを始めることです。

その歩みのゴールは、この世の安定や成功ではなく、神が約束された「天の宝」、すなわち永遠の命と神との完全な交わりです。恵みによって立ち上がった者は、その希望を胸に、一步一步前に進みます。

群衆はこの出来事を見て喜びました。恵みを受けて歩む姿は、他の人々にとっても励ましとなり、「神は今も働かれる」という証しになります。

神はすでに私たちを見つけ、呼び寄せ、立ち上がらせてくださいました。そして約束のゴールまで導いてくださいます。この確信をもって、顔を上げ、天の宝に向かって歩んでまいりましょう。